

2016年1月15日制定

2023年12月24日

都市文化研究センター研究員 応募者 研究業績評価指針

大阪公立大学大学院文学研究科
都市文化研究センター

大阪公立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター（UCRC）運営委員会は、都市文化研究センター研究員（以下、UCRC 研究員）応募者の研究業績を以下の基準に基づき評価し、その採否を決定する際の基準の一つとする。

- (1) 評価対象項目：研究業績のみとする。
- (2) 評価期間：UCRC 研究員に採用される年度からさかのぼって過去3年度（年度開始日4月1日）の応募者の研究業績を評価する。
- (3) ミニマム・スタンダード：UCRC 研究員採用にあたり、最低基準（以下、これを「ミニマム・スタンダード」と称する）を一つの基準とする。
- (4) 評価手続き：評価手続きは次の2段階からなる。
 - 第1段階：応募者は、別に定める「研究業績評価表」（別紙様式（3））に基づき、応募者自身の過去3年度分の研究業績をポイント評価し、右下欄の「過去3年度ポイント総計」に自己のポイントを記入する。
 - 第2段階：UCRC 運営委員会は、応募者が提出した「研究業績評価表」の過去3年度ポイント総計ならびに応募者が別途提出した応募書類を総合的に判断し、応募者の採否を決定する。なお、採否理由の問い合わせには応じない。
- (5) 「研究業績評価表」記入上の注意：UCRC 研究員応募者は、正確に自己評価をおこなったうえで「研究業績評価表」に記入することが求められる。UCRC 研究員採択後、不正確な記入が判明した際は、UCRC 研究員の資格を取り消す場合がある。

なお、UCRC 研究員に採用されるものは、以下のミニマム・スタンダードを満たしていることが望ましい。

ミニマム・スタンダード：3年間8ポイント

3年間で、単著論文（査読有）1本および単独学会発表（母語）2件、あるいは他の評価項目を合算して、これに相当する成果を挙げていること

上記ミニマム・スタンダードを数値（ポイント）に換算する基準は、下記の別表に基づきおこなう。

別表 ミニマム・スタンダードのポイント換算表

研究業績	ポイント
単著・共著（編著）刊行本（1件300頁以上切捨て）執筆50頁につき	2
著作の監修・編纂（執筆のないもの）	2
査読付学術論文・単著	4
査読付学術論文・共著	4/執筆者数
査読のない学術論文・単著	2
査読のない学術論文・共著	2/執筆者数
博士論文（未刊行のもの）	16
修士論文（未刊行のもの）	4
上記論文・著作のうち、外国語で書かれたもの	1
翻訳、資料の翻刻等（1件300頁以上切捨て）執筆50頁につき	1
その他の執筆活動（項目執筆、概説、書評等）（毎年5件まで）	1
単独学会発表（母語）（招待講演を含む）	2
単独学会発表（外国語）（招待講演を含む）	3
共同学会発表（母語）（招待講演を含む）	2/発表者数
共同学会発表（外国語）（招待講演を含む）	3/発表者数
その他の学術活動（小規模な学術集会等の企画、開催。または、セミナー等における司会、報告、研究成果の展示等）（各毎年5件まで）	1
研究資金等の申請（科研費等、代表者のみ）	1
研究資金等の受入（科研費等、代表者のみ）	2
研究資金等の受入（科研費以外の外部資金、代表者のみ）	2
その他の特記事項（受賞等）（ポイントは付与されません）	0

備考

- 論文には、UCRC 研究員応募段階で採択されているものの未掲載の論文を含みます。この場合、掲載予定雑誌発行主体からの論文掲載証明書をご提出ください。ただし、応募段階で未掲載の論文を業績としてカウントする場合、次年度以降の応募に際して、同一論文の業績は証明書が発行された時点とし、論文が刊行された年度に改めることはできません。

例：応募（2023年12月）時点で、2024年度に刊行される見込の論文は、証明書を提出することで「2023年度の業績」に計上することができます。ただし、次年度以降の応募では、当該論文を「2024年度の業績」とすることはできません（2023年度の業績として含めることは可）。

- 科研費報告書は単著論文（査読無）としてカウントします。
- 博士論文（未刊行のもの）は単著論文（査読付）4件としてカウントします。
- 修士論文（未刊行のもの）は単著論文（査読付）1件としてカウントします。
- フィールドワーク、調査等は報告書がある場合にカウントします。
- 分担者として外部資金に関与される場合は、外部資金獲得件数付帯のポイントが付きません。

以上